

編集後記

秋はバザーのシーズン。わが家のメダカも学校のふれあい広場に提供することになった。その年の春から秋までに卵から育った約七百五十匹（売上から逆算すると）のメダカをお碗で五匹すくって十円という計画をもらすと、長男のLは十円ではないやだと言った。その反応は、私には思いがけないものだった。それは、私にとってメダカとは何だったのかを振り返るきっかけになった。

そもそも、Lや妹のNとその友達が戸外で一つの遊びを始めるまでの、手持ちぶさたではらばらな互いの気持ちをつなぐものとしてメダカを飼い始めた。それが、餌をやり、

水を替え、卵がかえりなどするうちに、私にとっても彼らにとっても、メダカがおもちゃとは違う、“生き物”（共に暮らす命あるもの、死んでは困るが生き続けるためには世話のいるもの）、になっていった。

ところが、その冬に転居することになったので、私は、みんなを楽しませつつ、メダカの行き先も確保しようとしてメダカすくいを提案した。無意識に安い値を付けた私にとって、メダカはすくうことを楽しむおもちゃとしてあったようだ。それは、その直前までの私たちと共に暮らした生き物としてではなかった。

“五匹で十円”と聞いたとき私は、大人の私のメダカに対する身勝手さ（都合によっておもちゃにも生き物にもなる）に気づいてそれに抗議したのだと、私は思った。

(A)

幼児の教育

第九十六巻 第十号

(一九九七年十月号)

定価四六〇円(本体四三八円)

発行 平成九年十月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二―一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五―一―二―一

発売所 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一四一九

☎〇三―一五三九五―一六六―一三(営業)

☎〇三―一五三九五―一六六―〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二―一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。